

難治性内シャント狭窄症の1例

長崎腎病院¹⁾、長崎腎クリニック²⁾

○李 嘉明¹⁾、宮崎健一¹⁾、原田孝司¹⁾、船越 哲¹⁾、橋口純一郎²⁾

症例は74才女性。糖尿病性腎症による慢性腎不全にて平成16年より血液透析導入された。血圧、血糖コントロール不良で末梢血管乏しくシャント再建歴は数回ある。H17年より右前腕、肘部シャントに高度狭窄部位を認め、conventional balloon 使用し十分な拡張が得られず、2~3月おきに頻回のPTA術が必要であった。今回、超高耐圧バルンカテーテル(CONQUEST)で最大圧30atmを試みても拡張不良であったのが、PCB(peripheral cutting balloon)施行後にCONQUESTの追加で良好な拡張が得られ、一次開存期間が著く改善した。

【考察】

難治性シャント狭窄の症例に対し、PCB施行後にCONQUESTによるPTA拡張効果が上がる可能性が示唆される。今後さらなる症例の累積が必要と思われる。